

日本語学習者の相互インタビューにみられる談話の構造

村中淑子

1 はじめに

筆者は日本語の談話の構造の分析に興味を持って研究し始めているものであるが、本稿はその一部をなすものである。ここでは、日本語学習者が相互に行なったインタビューを資料として用い、談話の構造の分析を試みる。談話の構造の分析の方法については、決定的・絶対的なものが確立したとはまだいえない状況にあるように思われる。分析の試みを重ねていく中から、より良い方法を見つけないかと考えている。

ここで扱う資料は、自然に生じた談話ではなく、場面を限定してわざと生じさせた談話である。「日本語学習者どうしによる日本語の談話」であり、「時間（約5分間）と談話のやり方（インタビュー）を指定して録音機の前で話させた談話」である。このような資料から、一般論を導くことは危険であるので、できるだけ細かい観察をした上で、導き出せることだけを述べていく。現象の記述したいが目的であり、その現象が起こる理由について調べることは本稿の目的ではない。今回の被験者である学習者の母語はマレー語であるが、マレー語と日本語の対照分析という観点からは、分析しない。学習者の用いる日本語を、日本語のバリエーションの一つとしてとらえ、どのような特徴がみられるかを、日本語母語話者である筆者の主観で分析していく。ただし、聞きづらいところや表現の意図のわかりにくいところなどについては、インタビューの文字化を行なった後で、その文字化を学習者に渡し、録音テープを一緒に聞きながら確認する、という作業を行なった。

以下の章は、用いた資料についての説明、インタビューの録音の文字化、その談話構造の分析・考察、という順で進めていく。

2 用いた資料について

このインタビューは、1995年度前期、徳島大学2年生の「日本語」のクラス（工学部マレー系マレーシア人留学生3人）における期末テストとして、実施したものである。授業では、堀歌子・三井豊子・森松映子著「インタビューで学ぶ日本語」（凡人社）をテキストとして用いた。期末テストの1週間前に、次のことを口頭と板書で予告した。

- ・期末テストとして互いに5分くらいのインタビューをすること
- ・テーマは各自で決めること
- ・採点基準は次の点であること
 - 内容があり、まとまりがあるか。
 - 表現がうまく使えているか、なだらかに話が進んでいるか。
 - 間違ったときの自己訂正ができているか。
 - 発音が日本語として著しく不自然ではないか。

インタビューする相手は、インタビュー直前にその場で決めた。学習者はそれぞれ、質問項目を書いた紙を用意してきており、それを見ながら、相手の答えによってはアドリブの質問もまじえつつ、インタビューを行なった。インタビューする側になったときのみ採点対象とする、と告げた。

3 資料の文字化

次に、録音テープの文字化を示す。3人が交互に行なった3つのインタビューを、行なった順にそれぞれインタビュー1, 2, 3と呼ぶ。

漢字仮名交じりの表記であり、読み違えの無い範囲であれば、漢字で表記する。母音や子音の発音が日本語的でない場合でも、語の意味に誤解の無い範囲であれば、わざわざそれを表わさない。たとえば、スインコンリョコーという発音は「新婚旅行」としておく。語を誤解するほどの発音はごく少数であった。

「,」はポーズが入っている場所である。ポーズとともに文が完結したという印象のイントネーションで終わっている場所には「。」をつけ、発話の最後でも完結した感じのイントネーションでない場合には「,」をつけた。「?」はその直前が上昇イントネーションで終わったことを表わす。「・・」はその前の話者が発話を明らかに終えたとはいえないがもう一方の話者も話し出さず、誰も話していない部分である。//をつけたのはすぐ下の発話と同時に発音された場合である。発話の最初に=をつけたのは、直前の相手の発話の最後の部分と重なって始まったものである。話者が交代したところで発話を分け、話者ごとに順に番号を振った。相手に発話を渡していない場合で相手がかく短くなくなっている場合のみ、その発言を()に入れて示した。

ここでは、3人の学習者をそれぞれラ、ロ、フと呼ぶことにする。これは、彼等の実際の呼び名を仮名書きした場合の最初の文字である。インタビューの中で出てきた呼び名についても、文字化においては、ラ、ロ、フ、で置き換える。なお、文法的・語彙的・音声的に「間違っている」部分や、意味のとりにくい部分については、文字化につけた「注」あるいは後の記述の中で触れる。

【インタビュー1 (将来のこと)】

- ラ1 ロさん、今一、徳島で、なんの勉強を一、していますか。
ロ1 今、・・機械工学、徳島大学で機械、工学、勉強してます。
ラ2 そうですね、えーと、うーん、将来、何をす、するつもりか、・・(うーん、まあね、えーとー) 機械の工学部一で、うーん、・・何を、何、んーになりたいか、ときい、
ロ2 =んーそれはまだ決まっていけど、なにか、でも一、先輩によると、なに一、4年生のとき一、いろいろの仕事、んー、できるかも、しーれないけど、それは、ん、まだわかりません。
ラ3 そうですね。と、んーと、将来、んー何歳ぐらい、ご結婚、したい・・
ロ3 んー、まあ、早すぎるとは、25歳ぐらい、かもしれない。
ラ4 =おーそうですね、早いね。でも、相手一、まだ一、
ロ4 =んーまだ決まっていんです。
ラ5 おーそうですか。
んーもしかしら一、ご結婚をしたら一、何人子供を、欲しい、(んー)ですか。
ロ5 んー、・・それはたぶん、5人かな。
ラ6 あ、やっぱり。5人ですか。
・・んー、えーと、・・今まで、なんか一、悩みごとが一、ありますか。・・(んー)勉強の中で、一番苦しいこと。
ロ6 んー、それはなにか、先生の何、あの、授業は一、授業の説明は、いつもわからない、だから、それは、ちょっとむずかしいですね。
ラ7 んー、そうですね。えーとー、んー別に関係ありません、一番、行きたいところはどこですか。
ロ7 今、の一番行きたいところは、んー、・・オーストラリア。
ラ8 どうして。

- ロ8 いや、前は、何か、・・・んー、友達があるから、友達の、ところへ、行きたいです。
- ラ9 そうですか。・・・もしかしたら、・・・あー、ロさんがオーストラ、オーストラリア、へ行くことは、行くことの、チャンス、行くチャンスを、もらったら、どんなことをしたいか、オーストラリアで。
- ロ9 んー、いろいろなことをしたいけど、一番ほしいは、バンギージャンピング、したいんです。
- ラ10 バンギー、
- ロ10 バンギー／ジャンピン、 　　ん、そう。 　　あの高いところ、
- ラ11 　　バンギージャンピング、・・・ 　　どういうことですか。
- ロ11 あの、高いところ、あに、足が、あー、足が、何か、
- ラ12 く、くくって、
- ロ12 =うん、くくって、高いところ、ジャンプして、それが一番ほしい、ことです。
- ラ13 こー、こわ、くない？
- ロ13 うん、こわくない。
- ラ14 そうですか。えーと、あこがれ、ひとに会いたい、誰と。一番あこがれひと、誰か会いたい、将来。
- ロ14 うん、まあ、・・・たぶん、・・・どうかなあ、・・・うーん、・・・
- ラ15 歌手とか、／／えーと首相とかー。
- ロ15 　　たぶん首相、首相。マレーシアの首相。
- ラ16 =マレーシアの首相。
- ロ16 そう。
- ラ17 もしかしたら、あこがれのあの、マハティールさん、マハティール首相に一、会ったらー、
- s-えーと、・・・何がー、彼、な、何を彼に一、言いましたか。
- ロ17 うーん、で、首相、うーん、会ったら、なんか、ほんとに、ありがとうございますと、言いたい、
- あの一、日本、日本に行くことができる、彼、彼のことから、はくは日本に来ることができます。
- ラ18 =おーそうですか。
- ロ18 はい。
- ラ19 えーと、・・・んー、・・・それだけ。
- ロ19 ありがとうございます。

(5分50秒)

〔注〕

- ラ2 ここで「そうですか」と言わずに「そうですね」と言っているのは、相手の答えが自分の知っている情報だったからということである。最後の部分は「何になりたいかと聞きたい」という意図であった。
- ロ2 中の部分の意図は「先輩の留学生から聞いた話によると、4年生のときに、いろいろな会社から誘いがあるらしいのでいろいろな仕事への可能性がある」ということ。
- ロ3 「早すぎるとは」の意図は「早い場合は」。
- ラ5 「もしかしたら」は「もし」と言うべきところであるが、ラはこの間違いが癖になっている。
- ラ6 「やっぱり」と言ったのは、マレーシアでは子供が5人というのが平均的な家庭だからということである。「苦しいこと」は「苦しいこと」の間違い。
- ロ6 この中の「先生」は特定の教師ではなく、専門科目の教師全般をさしているとのことである。
- ラ7 「これは別に関係ありませんが、」としたほうが適切であるが、傍点部がないものである。
- ロ8 「前は何か、友達があるから」の意図は「昔からの友達がいるから」。
- ロ9 「いろいろなこと」は「いろいろなこと」の間違い。「一番ほしいは」の意図は「一番ほしいのは」つまり「一番したいことは」。
- ラ14 意図は「あこがれの人で将来一番会いたい人は誰ですか」。
- ラ17 「s-」は、歯のあいだから息を吸い込む音を表わす。この後、ラだけでなく、フの発話にもしばしば現われる。最後の「言いましたか」はタ形とル形の間違い。
- ロ17 「彼のこと」の意図は「彼のおかげ」。

【インタビュー 2 (敬老の日)】

- フ1 えー、あの一、おはようございます。
ラ1 おはようございます。
フ2 なんかー、日本で、なんか特別の一日がありますねー。
ラ2 そうですねー。
フ3 なんかー、たとえば一、あの一、敬老ひーとか一、労働者の日ーとか一。子供の日ーも。
ラ3 そうですねー。
フ4 なんかー、今日はなんかー、話したい一、ことは一、敬老ひー、についてですねー。
ラ4 ・・そうです。
フ5 ラさん、知っていますか、敬老ひーについて。
ラ5 えーっと、敬老ひーは、老人のために一、お祝い、ひー、・・という意味なんですけど一、
sーほんとの意味は、・・んー、老人を、老人に、感謝する、えーっと、・・
老人に、感謝する、ことは一、・・一番、大事なことです。
フ6 そうですか。なんか、敬老ひーは、マレーシアと、日本と比べてたら、なんかー、
マレーシアでなんか、そういう日は、ないでしょ？
ラ6 そうです、ね。
フ7 ・・なんかー、ラさんの考え方は、日本で、敬老ひー、についてですねー、んー、(んー)
・・どうと思いますか。
ラ7 sー、やっぱり一、日本で、けー、敬老ひーは、んー、・・いいと思うけど一、・・んー、・・
えーと一、・・んー、老人は一、・・一番、老人は、一番、尊敬する、・・人なんです、から、・・
フ8 んー、そうですか。えーなんかー、んー、マレーシアで、なんていうかなー、んー、・・だいたい、
家族は一、多いですねー。
ラ8 そうです、
フ9 ・・なんかー、だいたい、マレーシアの家族は、老人は、自分で、世話一、しています。ですねー。
ラ9 そう。
フ10 でも一、そのことは一、日本で、なんかー、あんまり一、やってない、でしょう？
ラ10 そう、
フ11 ・・んーなんかー、今の話、ですねー、んー、老人のホームセンターについて。どう、と思いますか。
ラ11 まあ、・・えー、んー、わかつ、わかも、んー、わたしたち、んー、若い人は、・・老人、親とか、
すー世話、をすることは一、いち、んー、しなければならなくちゃ、しなければならぬ。それで、
老人を、もしかしたら、親を、親、・・おやー、を、えーと、ホームセンターに、んー、まかし、
まかしましたら一、それ、そんなことはあんまり、よくない、と思う。前は、子供のころ、んー、
・・親がつらい、親が一、私たちを育ててることが、ちょっと、つらい、と、考えます。
フ12 そうですか。なんかなー。老人の話ーについてですね、いろいろなことがありますね、たとえば、
アルツハイマーですね、なんかー、アルツハイマーについて、なんか、日本で今、sー問題が、んー
ちょっと一、ありますねー。んーなんかーその話につ、についてねー。についてですねー、
なんかー、ラさんの考え方は、どう、どうですか。
ラ12 そう、ねー、えーと、アルツハイマーは、日本ではなくて、世界中も、そういうこと、あります。
もーしマレーシアで、私の、前、もと、前の、今、死んでしま、しまった一、おじいさんが、も、
アルツハイマー・・の病気に、なります。なりました。えーと、・・彼は、んー、
アルツハイマーの病気に、なるとき、まー、ほかの人一、・・に、・・迷惑、かけてします。
それは一、んー、本人も、じ、もし、本人も、そういうこと、・・は、・・になりたい、
そういうことになりたい、なりたくない、かもしれない、けど、ま、もし、もしかしたら、
アルツハイマーに、アルツハイマーの病気に、なったら・・、sー、死んだほうがいいと思う。
フ13 なんかー、今日の面白い話と、ご協力は、ほんとに、どうもありがとうございました。
ラ13 あ、ありがとうございます。(6分45秒)

〔注〕

- フ3 「敬老ひー」の意図は「敬老の日」。フはこのインタビューの間、ずっと「敬老の日」を指してこの表現をしている。このインタビューは敬老の日の2週間ほど後に行なわれた。

- フ6 「比べてたら」は「比べたら」の間違い。
 フ7 「どう思いますか」は「どう思いますか」の間違い。
 ラ7 「尊敬する人なんですから」の意図は「尊敬するべき人なんですから」。
 フ11 「老人のホームセンター」は「老人ホーム」のこと。
 ラ11 「すー世話」は、「せわ」の始めの子音をかなり長く延ばしていたものである。
 「前は、」は「私たちが大人になる前、」の意図。この発話の後半の意図は、「親を老人ホームに
 任せるのは良くない。私たちがこどものころ、親は苦しい思いをしても育ててくれたのだから。」
 ラ12 「迷惑、かけてします」の意図は「迷惑をかけてしまいます」。「死んだほうがいいと思う」の
 は、自分がアルツハイマーになった場合のこと。

【インタビュー3（旅行について）】

- ロ1 んー、おはようございます。
 フ1 おはようございまーす。
 ロ2 んー、・・今日のテーマは、旅行、のついてなんですけどー、今まで、んー、・・どこー、ど、
 今まで、どこへ、あー、行くことが、ありますか。かー、日本、に、日本で。
 フ2 そうすなー、今はー、はくはー、一番遠いところは、岩手、行きましたね。
 ロ3 んー、それはーなに、ひとりで、とか。
 フ3 いやー、そのことー、ではありません、でしたねー。なんかー、そ、そのときは、私とー、私の、
 お、い、いとこ、一緒に、いきました。
 ロ4 んー、そうですか。んー、・・海外旅行は、行ったことがありますか。
 フ4 んー、そう、ですなー。今までは、sー一番遠いところは、あの一、タイ、です。
 ロ5 んー、タイランドですね？
 フ5 =はい。
 ロ6 あーそうですか。あの一、・・今、一番行きたいところは、どこですか。
 フ6 んー、いろいろなところですね、でも、sーんー、一番、行きたいのはー、なんか、メッカ、です。
 ロ7 んー、それは、イスラム、教のこと、ですなー。
 フ7 =はい、そうですなー。
 ロ8 =あー、わかりました。あの一、旅行するときーに、なにか、おもしろいことー、ですか。
 フ8 そう、ですなー、一番おもしろい、ことはー、なんかー、んー、久しぶりに友達を、会ったしー、
 ・・なんかー、sー、んー、ほかの一、ところの、とく、特徴、があることもー、ゆっくりー、
 しているしー、なんかー、・・さびしいことも、なく、てしまった、こともー、ありますね。
 ロ9 そうですなー。あの一、むかしの友達が、あれも、あうとき。
 フ9 そうそう。
 ロ10 なんかもうー、あの一、・・でも、なにか、困ったことは？
 フ10 困ったことは、んー、やっぱり、日本語ーですなー。・・なんかー、来ったばかりだから、日本語は、
 あんまりよく、ないです。
 ロ11 =あー、そうです。あの一、・・フさん、旅行するとき、どう、な、なんで、あー岩手、
 いく、行きますか。
 フ11 んー、岩手県ですなー。sーなんかー、・・あそこで、なんていうかなー、私の一、一番ー、
 いい友達はー、なんかー勉強しています。あの一、なんかー岩手大学で。
 ロ12 あーそうです、そうですか。あの一、・・旅行、旅行は、んー、・・旅行の、お金は、どこから、
 もら、なに、自分で、つめるとかー。
 フ12 んー、そのことで、なんかー、自分のことは、自分、自分で貯金しなければなりませんですなー。
 ロ13 =アルバイトー、しますか。
 フ13 今はー、やってないんです。
 ロ14 おーやってないんです、だからー、奨学金だけ。
 フ14 はいそうそうです。でもー、sー私は、旅行するときはなんかー、あの一、とく、べつの一、
 休み、だけですなー。たとえば日本で、なんかー、夏のときは、特別の、切符を売っていますね、
 (あーそう)たとえば青春、18切符、

- ロ15 あーそうですかー。
 フ15 安いです。
 ロ16 そう、ですね、そのときは、安いですね。あの一、あー、フさんは、あの一、新婚旅行はどこー、どこへ、行きたいんですか。
 フ16 んーそのことは、まだ考えてないですねー。今は、なんかー、んー、・・んかー、お金の問題とか、いろいろの問題がありますから、なんかー、まだ決まってない。
 ロ17 じゃあ、し、新婚旅行は、やって、ないー、んですか。(たぶん)やりたくないんですか？
 フ17 =たぶんやりたいですねー、なんかー、だいたい、sーなんかー、新婚、ひとびとはー、なんかー、しん、しんー、・・しん、
 ロ18 新婚旅行、
 フ18 =しん、新婚旅行は、ほしい、ですねー。
 ロ19 はい、そうですねー。あの一、こくな、マレーシアの国内？
 フ19 んー、たぶん、／／そうですねー、
 ロ20 それとも、海外？
 フ20 マレーシアの、観光地で。
 ロ21 マレーシアの観光地で？
 フ21 はい。
 ロ22 =ん、いやー、あー、ある人は、なにか、フランスとか、一番ロマンティックのところといった、それはー、どうと思う。
 フ22 そのことー、ですねー、ちょっとー、もったいなと思う。思いますねー、なんかー自分の国でー、いいところもー、ありますからー、んー、ちょっとー、もったいなと思いますねー。
 ロ23 =あーそうですか。あの一、最後の一、質問、ですけどー、なにかー、もしー、子供があったらー、まだー、旅行したいんですか。
 フ23 んー、そのことはー、たぶん、ちょっとーむずかしいですよー。なんかー、sーなんか、んー、子供のー、・・料金もー、考えなければなりませんですねー。でもー、がんばります。
 ロ24 んー、それだけ。ありがとうございます。
 フ24 =はい、ありがとうございます。(6分2秒)

〔注〕

- ロ2 「行くことがありますか」の意図は「行ったことがありますか」。
 フ3 「そのことではありません」の意図は「そうではありません」。
 ロ8 「おもしろいことですか」の意図は「おもしろいことがありますか」。
 フ8 この発話の全体の意図は「久しぶりに友達にあって、ほかの地域の特徴のあるところを詳しく知ったり、淋しくなくなったりすることが、旅行の面白いところである」。
 ロ9 「むかしの友達が、あれも、あうとき。」の意図は「昔の友達に会うのも面白い」。
 フ10 「来たばかり」というのは「来たばかり」のつもりで、よけいな促音を挿入してしまったものである。「来たばかり」というのは、「日本に来たばかり」の意味であるが、これは日本滞在が1年以上になるフのよく言う冗談である。「日本語はあんまりよくない」というのは「日本語はあまりうまくない」の意味。
 ロ11 最後の「行きますか」は「行きましたか」の間違い。
 ロ12 「つめる」は「ためる」のつもりで発音を間違えたものである。
 フ17 「新婚ひとびとは」の意図は「新婚の人々は一一般的に」。
 フ18 「ほしい」は「したい」というべきところ。
 ロ22 「ある人は、・・(中略)・・ところといった」は、「・・ところに行きたいと言う人もいる」の意図。
 ロ23 「子供があったら、まだ、旅行したいんですか」の意図は「子供が生まれてからも旅行しますか」。

4 談話の構造

3つのインタビューについて、その談話の構造を以下に分析して示す。

【インタビュー1】

	<発話のはたらき>	<話題>	<談話の流れ>
ラ1	質問	今何を勉強しているか	次々に質問
ロ1	回答		
ラ2	あいづち (そうですね)		
ロ2	質問<言い直しあり>	将来何になりたいか	
ラ3	回答+情報		
ラ3	あいづち (そうですか)		
ロ3	質問<言いかけ>	何歳で結婚するか	
ラ4	回答+条件		
ラ4	あいづち (おーそうですね、早いね)		
ロ4	関連質問<言いかけ>	結婚相手は決まっているか	
ラ5	回答		
ラ5	あいづち (おーそうですか)		
ロ5	関連質問	子供は何人ほしいか	
ラ6	回答		
ラ6	あいづち (あ、やっぱり。5人ですか。)		
ロ6	質問+補足	悩みごとはないか	
ラ7	回答		
ラ7	あいづち (んー、そうですねー)		
★	話題転換 (別に関係ありません)		話題の転換 また質問続く
ロ7	質問	一番行きたいところ	
ラ8	回答		
ラ8	追求質問	なぜそこに行きたいか	
ロ8	回答		
ラ9	あいづち (そうですか)		
ロ9	追求質問	そこで何をするか	
ラ10	回答		
ラ10	聞き返し<言いかけ>	そのことの説明	
ロ10	回答<言いかけ>		
ラ11	追求質問<ラ10の続き>		
ロ11	回答<言い淀み>		
ラ12	助け<あいての探していることばを推測して差し出す>		
ロ12	回答<ロ11の続き>		
ラ13	追求質問	そのことについて感想	
ロ13	回答		
ラ14	あいづち (そうですか)		
ロ14	質問<不完全な文>	将来会いたい人は誰か	
ラ15	応答のみ<言い淀む>		
ロ15	助け<例を挙げる>		
ラ16	回答		
ラ16	あいづち (マレーシアの首相)		
ロ16	肯定 (そう)		
ラ17	追求質問	その人に何を言いたいのか	
ロ17	回答+理由		
ラ18	あいづち (おーそうですか)		
ロ18	肯定 (はい)		
ラ19	★ 締めくくり (それだけ)		談話終了
ロ19	あいさつ		

【インタビュー2】

<発話のはたらき>		<話題>	<談話の流れ>
フ1	(あいさつ		談話開始
ラ1	(あいさつ		
フ2	(確認	日本の祝日	話題へのきっかけ
ラ2	(あいづち (そうですね)		
フ3	(確認<フ2の続き>	祝日の例を挙げる	
ラ3	(あいづち (そうですね)		
フ4	★ 話題提示	敬老の日	話題に入る
ラ4	(あいづち (そうです) <ややとまどい>		
フ5	(質問	敬老の日を知っているか	質問を始める
ラ5	(回答		
フ6	(あいづち (そうですか)		
ラ6	(確認	マレーシアにはそれが無い	
フ7	(あいづち (そうです, ね)		
ラ7	(関連質問	敬老の日をどう思うか	
フ8	(回答		
ラ8	(あいづち (んー, そうですか)	マレーシアの老人と家族	次の話題のための説明
フ9	(確認		
ラ9	(あいづち (そうです)		
フ10	(確認続き		
ラ10	(あいづち (そう)		
フ11	★ 話題提示	老人ホーム	関連話題の提示と質問
ラ11	(関連質問		
フ12	(回答		
ラ12	(あいづち (そうですか)		
フ13	(関連質問	アルツハイマー	
ラ13	(回答		
フ14	(あいさつ		談話終了
ラ14	(あいさつ		

【インタビュー3】

<発話のはたらき>		<話題>	<談話の流れ>
ロ1	(あいさつ		談話開始
フ1	(あいさつ		
ロ2	★ 話題提示		話題提示
フ2	(質問	日本の中でどこへ行ったか	質問始める
ロ3	(回答+条件		
フ3	(追求質問	誰と行ったか	
ロ4	(回答+情報		
フ4	(あいづち (んー, そうですか)		
ロ5	(関連質問	海外旅行は行ったか	
フ5	(回答+条件		
ロ6	(聞き返し		
フ6	(肯定 (はい)		
ロ7	(あいづち (あーそうですか)		

- フ6 (関連質問 今行きたいのはどこか
回答
ロ7 確認質問
フ7 肯定 (はい, そうですねー)
ロ8 あいづち (あー, わかりました)
- フ8 (関連質問 旅行で面白いことは何か
回答
ロ9 あいづち (そうですねー. あの, 昔の...)
フ9 あいづち (そうそう)
ロ10 言い淀み (なんかもう, あの一)
- フ10 (関連質問 旅行で困ったことは何か
回答+説明
ロ11 あいづち (あー, そうですね)
フ11 追求質問<フ2, フ3を受けて> なぜ岩手に行ったか 前の話題に言及
ロ12 回答
あいづち (あーそうです, そうですか)
- フ12 (関連質問 旅行の費用はどうするか 質問続く
回答
ロ13 追求質問
フ13 回答
ロ14 聞き返し (おーやってないんです)
確認質問
フ14 肯定 (はいそうそうですね)
説明追加
ロ15 あいづち (あーそうですかー)
フ15 説明追加続き
ロ16 あいづち (そう, ですね, そのときは, 安いですね)
- フ16 (関連質問 新婚旅行はどこへ行くか
回答+理由
ロ17 追求質問 新婚旅行に行きたくないのか
フ17 回答<言い淀み>
ロ18 助け<ことば差し出す>
フ18 回答続き
ロ19 あいづち (はい, そうですねー)
- フ19 (追求質問 マレーシア内か外か
回答<言いかけ>
ロ20 質問続き
フ20 回答
ロ21 聞き返し
フ21 肯定 (はい)
ロ22 追求質問 フランスなどはどうか
フ22 回答
ロ23 あいづち (あーそうですか)
- ★ 終わりの接近を示す (最後の質問ですけど) 終了の前触れ
- フ23 (関連質問 子供ができたら旅行はどうするか
回答
ロ24 ★ 締めくくり (それだけ) 談話終了
あいさつ
フ24 あいさつ

・用語について

ここで談話の構造を分析するために用いた用語を説明する。

「発話のはたらき」は、その発話の中で話者が「何」を行なっているかということを端的に表すものとした。項目としては、「質問、回答、あいづち、肯定、あいさつ」などを設定した。このような日常一般的ともおもわれる用語を用いることについては、記述に厳密さが欠けてしまってよくないという意見があるかもしれない。すなわち、「質問」「回答」ではなく「情報要求」「情報提供」とした方がよい、という意見である。しかし、「情報要求」は質問文でも命令文でもありうるし、「情報提供」は質問に対する回答だけでなく、話を持ちかけるときにも用いられる。それならば「質問・情報要求」とか「回答・情報提供」というように並列させたほうが厳密である。さらに詳しく考えると「質問・情報要求」はある文脈においては誘いの前触れの機能を持っているかもしれない、「質問・情報要求・誘い前触れ」などとしなければならないかもしれない。詳しく考えれば考えるほど、その文脈におけるその発話のはたらきというのは、単純に一言では言い表せないものである。いっぽう、談話の分析を行なう場合、その談話の全体像を示そうとすれば、文字化に加えて、談話の構造を一覧表のような形に示す必要がある。その一覧表においては、一つ一つの発話をそのままの形でなく、なんらかのラベルで代表させるのが便利である。発話に貼り付けるラベルとしては、その発話の機能を示す用語がもっとも適切であり不可欠であろう。一覧表の作成の目的から考えて、見やすさ・わかりやすさが要請されることから、ラベルはあまり長すぎない方がよいであろう。ゆえに、一覧表においては、機能を完璧に網羅して表そうとするのではなく、なるべく短く端的なことばを選ぶのがよい。先の例で言えば「質問」「情報要求」「誘い前触れ」のいずれかを、なんらかの基準で選ぶ必要がある。ここではその発話の中の文の性質を重んじて、「質問」「回答」などの用語を用いておく（ただし、発話の機能を表す用語については今後さらに考察を重ねていく必要がある）。また、「発話のはたらき」を「発話機能」と呼んでもよいが、先行研究をみると「発話機能」は「情報要求」「情報提供」などの項目と分かちがたいように思われるので、ここではそれを避けて「発話のはたらき」と呼ぶ。

「発話」とは、一人の話者が続けて話すひとまとまりの部分を目指す、はたらきから見て、2つ以上の部分に分けられる場合もある。その場合は、一つの発話について、2つ以上の「発話のはたらき」を順に並べた。

「話題」とは、そのとき何について話しているか、を表したものである。ここではインタビューという談話の性質上、何を質問したかということを話題とみなしてよい場合がほとんどであった。

「談話の流れ」では、主にインタビュアーの側から見て、インタビューにおいて今どのような行動が進行中か、ということを示した。

「発話のはたらき」の各項目について。「質問」は最初にその話題にふれたときは「質問」とし、直前の話題と明らかに関連のある話題についての質問であれば「関連質問」、直前の話題を詳しく追求する質問の場合は「追求質問」と呼ぶ。「回答」は質問に対する答えである。「回答」や「質問」が端的に「回答」「質問」を行なうだけでなくそれ以外の情報も含んでいる場合は、+をつけてその後に「理由」「条件」などをつけ加えた。「あいづち」は相手から伝えられた情報を自分が受け入れたことを示すことばをそう呼び、具体的には「そうですか」「そうですね」や相手のことばのおうむ返しなどがそれである。ただし、おうむ返し疑問文につながる場合は「聞き返し」とした。「あいづち」

にたいしてさらに相手が「はい」「そう」などと答えることがあるが、これについては「肯定」という項目を立てた。そのほかの項目については、考察の中でそのつど説明を行なう。

なお、「あいづち」や「肯定」などの後ろには、()に入れて実際の発話内容を示した。<>の中は言いかけ、言い淀みなど、その発話についての情報を入れた。

5 考察

さて、一覧表を作って観察すると、これらの談話の構造は、2通りの方向から光を当てることができそうである。すなわち、全体の流れや性質をつかむために部分をみていくという方向と、小さな単位からそれを少しずつ束ねて、全体へと広げてみていく方向とである。以下、それぞれの方向から述べていく。

5-1 全体から部分へ

インタビュー1では、インタビューは次々とひたすら質問を続けていく。「何々について話したい」というような話題についての言及はなく、「(あなたは)〇〇ですか」という質問の形によって話題が出される。質問は意見を求めるようなものではなく、相手の状況や希望をたずねるものがほとんどで、相手は考えこむことも少なく、比較的答えやすかったものと思われる。質問に対する相手の回答は比較的短い。インタビューはそれにあいづちを打った後すぐに次の質問を繰り返していき、そのパターンが繰り返される。まるでアンケートのようでもあり、やや単純な組み立てともいえる。話の内容は「今の勉強→将来の仕事→結婚について→悩みごと→行きたいところ→会いたい人」というふうに推移している。将来の夢にかかわっているという点では全体にほぼまとまりがあるといえるだろうが、緊密なまとまりというよりは、ゆるやかなまとまりである。なかでも、「悩みごと」はやや異色な感じがする。しかしインタビューはそのことには言及していない。「行きたいところ」の話に入る前には、「別に関係ありません」という表現によって話題転換を明示している。インタビュー自身はここで内容のとぎれを感じたのであろう。これは「全体の流れの中に立てられた標識」(★をつけた)であるとみなせる。ラ19の「それだけ」という表現は、談話の終了部を示すための標識であるとみなせる。

インタビュー2では、インタビューは質問を始める前にきっかけ作りを行なっている。すなわち、そのことがらに関連する情報を、いくつかの発話にわたって自分からその場に提供した後に、質問をしている。これは、質問だけを出すよりも、話題を強くコントロールするために有効な方策といえるだろう。また、話題を明示する標識を用いている。すなわち、フ4「今日はなんか、話したい、ことは、敬老ひー、についてですね。」とフ11「今の話ですね、老人のホームセンターについて。」である。話題の数、発話の数ともに、インタビュー1よりも少ない。これは、ほとんどの質問が「〇〇についてどう思いますか」と意見を求める形であるため、相手がひとことでは答えられず、考えをその場でまとめるのに時間がかかり、それを表現する日本語を探すのにも手間取ったため、一つの質問に対する回答が比較的長くなったからである。話の内容は「敬老の日について→マレーシアの家族事情と日本との違い→老人ホーム→アルツハイマー」というふうに流れており、すべて「老人に対するケアについての考え方」という点で共通で、緊密なまとまりをもつといえるだろう。

インタビュー3では、始めに話題を明示する標識があり、その後次々と質問をしてい

く。「(あなたは)〇〇ですか」の形の質問が多いことからみても、インタビュー2よりはインタビュー1に近い組み立てかたといえる。ロ11で前触れなしにとつぜん、かなり前の話題に戻って質問しているが、それ以外はほぼなだらかに話が進んでいる。話の内容は「日本国内旅行→海外旅行→旅行で感じること→旅行の費用→新婚旅行→子供ができた後の旅行」と、始めの標識のとおり、「旅行」というテーマで統一されている。ロ23の「最後の質問ですけど」ということばは終わりが近づいたことを示す標識であり、これが あることによって、唐突に終わることを避けている。

談話の開始部に注目すると、インタビュー1はいきなり質問から始めていたが、インタビュー2と3ではあいさつを交してから始めている。終了部を見ると、インタビュー1ではインタビューは「それだけ」と言って終わりを告げ、相手だけがあいさつしている。インタビュー2ではインタビューと相手の双方があいさつし、インタビュー3では、インタビューが終わりを告げた後に、双方があいさつしている。このように、開始部と終了部はインタビュー1、2、3と進むにつれて、より発展した形になっている。これは、他の人のインタビューが目の前で行なわれた直後に自分のインタビューを始めるので、改良することができたのではないかと考えられる。

5-2 部分から全体へ

インタビュー1では、「発話のはたらき」を束ねてできる最小の単位として、「質問→回答→あいづち」のつながりが挙げられる。この3つの「発話のはたらき」は、一つの話題を核として、分ち難くつながっている。これを仮に「インタビュー談話における基本連続パターン」と呼ぶ。インタビューにおける質問は、誘いか依頼のような何かほかの行動を起こす前触れとしての質問ではなく、質問のための質問、実質的情報としての回答を引き出すためにする質問が多い。回答じたいが強く要求されるものであり、なんらかの理由がない限り回答を避けることはできない。インタビューは、回答の要求が満たされたかどうかをいちいちチェックしながら先へと進むのが望ましく、相手の回答を受けとったという印である「あいづち」も欠かせないものである。「基本連続パターン」にもう一つ要素が加わった「質問→回答→あいづち→肯定」というつながりもインタビュー1の談話の終わりのほうにみられるが、「肯定」は必須のものではなく、他の3つの要素のつながり方に比べるとゆるやかにつながっているものである。ただ、このつながりも、一つの話題を核とした最小のまとまりであるとみなせる。ここでは一つの話題を核とした最小のまとまりを仮に「連続パターン」と呼ぶ。これは左側を丸括弧でくくって表わした。ラ8およびラ13では「あいづち」なしですぐ次の質問へ移っているが、これは直前の回答に対する疑問をすぐに出したもので、ここでは「追求質問」と呼んでいるものである。この場合は「あいづち」のないことにより、スピード感のある生き生きした会話となっている。つまり、ラ8、ラ13の場所においては「あいづち」よりもさらに求められる形として、「追求質問」が出てきたのである。似た性質をもつものとして、「聞き返し」がある。ラ10では直前の相手の回答の中の「バンギージャンピング」ということばを聞き返している。ここも、あいづちを打たずすぐ聞き返すことにより、話が盛り上がる。このように「基本連続パターン」が追求質問や聞き返しによって変則的になると、それは話の盛り上がりを示す、という仮説が立てられる。

ラ1の質問は、次のラ2の質問と命題的には関係がないように見える。しかし、ラ2をよくみると、「将来何をするつもりか」という質問を「機械の工学部で、何になりたい

か」と言い直している。これは「工学部の機械工学科を卒業した後、何になりたいか」ということであり、ラ1の質問と関連づけたものであることがわかる。ゆえに、はじめの二つの基本連続パターンは、内容的つながりのあるものとして考えられ、合わせて「連続パターン」よりも大きな一つの単位を形成している。この単位を、仮に「内容まとり」と呼ぶ。これは、左側を角括弧でつないで表わした。ラ3, 4, 5の質問ではじまる3つの基本連続パターンは、いずれも結婚に関係したもののなので、これも「内容まとり」とみなせる。ラ7からラ14に続く部分はやや長めであるが、ずっとオーストラリアについて話している部分であり、「内容まとり」とみなした。この中には、追求質問が多く、聞き返しもある。追求質問や聞き返しは相手の話に直接興味をひかれたという印であり、話が盛り上がっているというめやすとなり、その場合は「内容まとり」は長くなる、という仮説が立てられる。

インタビュー1におけるインタビューの発話の特徴として挙げられるのは、あいづちにいくつかのバリエーションがあることである。知らなかった情報に対しては「そうですか」、知っていることについては「そうですね」、予想できたことについては「あ、やっぱり」と使い分けるほか、ラ4, 6, 16にみられるように、相手のことばのおうむ返しもつかっている。ラ12, 15にみられるように、相手への配慮、およびインタビューを円滑に進めるための配慮として、「助け」も行なっている。これは、相手が言い淀んだときに相手の言いたいことばを推測して、あるいは相手の考えるヒントになることばを思いついて、それを差し出すものである。インタビュー1の受け手の側の発話の特徴としては、質問に対して文字どおり求められたことだけを答えるのではなく、それに関する情報を付け加えた回答をときどき行なっている。

インタビュー2は、インタビュー1とくらべて、全体の展開の仕方が異なるのはすでにみたとおりであるが、最小単位としてもインタビュー1にはなかったのがみられる。

「確認→あいづち」である。「確認」は、インタビューが、あることに関する情報をその場に提供し、「ますね」「ですね」「でしょ」という文末形式をつけて相手に確認するものである。フ2, 6, 8, 9, 10がそうである。フ3にはそのような文末形式はついていないが、後ろの「ありますねー」が省略されているものとみることができるので、これも「確認」である。「確認」は相手のあいづちを要求するものであり、そのあいづちの後には次の段階に入らねばならないものなので、「確認→あいづち」を、一つの単位として認めることができる。一つの話者を核にした最小のまとりであるから、これも「連続パターン」と呼んでよいだろう。ただし、「確認→あいづち」は、「質問→回答→あいづち」とは少し異なる性質をもっている。「質問→回答→あいづち」はそれだけで談話を完結することもできるが、「確認→あいづち」はそうではない。インタビューという談話の性質上、インタビューは相手にあいづちを打たせるだけでは目的が果たせない。インタビューにおいては、「確認→あいづち」は後の話のきっかけを作るために使われるものである。いわば、話題に入るための助走のようなものである。

フ2からラ3にかけて、「確認→あいづち」のパターンが2回繰り返され、その後に話題提示が行なわれている。フ8からフ11にかけては「確認→あいづち」が3回続いた後に話題提示が行なわれている。一つないし複数の「確認→あいづち」の後に「話題提示」が置かれる、という流れを、ひとつの「内容まとり」とみなしてもよいだろう。話題を出すという目的を果たすまでのひとつつながりと考えられるからである。このタイプの「内容まとり」はその中に違う種類の発話を差し挟むことができにくく、それだけ緊密なも

のである。この形はインタビューのイニシアティブによってつくられるもので、インタビューの談話に対する強いコントロールがうかがえるものである。

フ4の話題提示の後に、受け手は「そうです」ととまどいながらあいづちを打っている。ここで「そうです」という形を用いるのは不適切にみえるが、実際は敬老の日について話すということを受け手は知っていたため、「そうです」と言ってしまうと、すぐに变だと気付いたようである。話題に入った後は、フ5からとフ11からにみられるように、「質問→回答→あいづち」の基本連続パターンがある。

インタビュー2においては、インタビューの行なうあいづちは、「そうですか」のみである。受け手の回答がかなり長く、それも言い淀みながらしほり出すように出した回答なので、「そうですか」のみのあいづちはややそっけないように聞こえる。また、フ12から始まる最小パターンは、「質問→回答」で終わっており、インタビューによる「あいづち」がないのも、そっけない感じがする。インタビュー1でみたように、あいづちがなくても次にすぐ追求質問や聞き返しが来る場合は、話の盛り上がる部分であったが、ここは次が終わりのあいさつであり、盛り上がるとはいえない。このインタビューは、談話についての配慮という点では、話題をしっかり定着させるために助走的なことを行ない、意見をじっくり引き出しているが、相手に対する配慮という点では物足りない感じがある。

インタビュー3では、話題提示のすぐ後に、基本連続のパターンを破る追求質問があり、はじめから盛り上がりを見せている。ロの10で言い淀んだり、ロ11で突然だいたい前の話題に戻ったりはしているものの、ロ12からロ16までと、ロ16からロ23まではそれぞれ「旅行の費用」「新婚旅行」でまとめられ、長めの「内容まとめ」が二つ続いている。「旅行の費用」の長さは受け手側の「説明追加」という協力によるところが大きく、「新婚旅行」の長さはインタビューが次々に追求質問を出しているところによる。

このインタビューの特徴としては、インタビュー1のインタビューと同じく、あいづちの種類が多いことが挙げられる。「そうですか」「そうですね」「わかりました」のほか、ロ9、16のおうむ返しがある。ロ5、14、21と「聞き返し」が多いことと、ロ18で「助け」を行なっていることも、相手の発話への興味を示すものとして評価できる。またこの話者は、「あいづち」とも「聞き返し」とも似ているが少し異なる、「確認質問」を行なっている。これは相手の行なった回答について自分なりの解釈を行ない、それを相手に確認するものである。あいづちよりも積極的に談話に参加している印とみなせるだろう。インタビュー3の受け手の側の特徴としては、回答に条件や説明、理由などの情報を付加しており、話を膨らませることに協力的である。フ9では、ロ9のやや長いおうむ返しに対して、「そうそう」とあいづちを重ねたりもしている。

5-3 考察まとめ（仮説）

以上の考察から、次のような、いくつかの仮説を立てることができた。

インタビューの談話においては、インタビューから始まる「質問→回答→あいづち」という発話の連続を基本パターンとみなしてもよいが、このパターンばかりが続くと単調な感じを与える。このインタビューの「あいづち」の部分が「追求質問」「聞き返し」などにとって代わられた変則的なパターンになると、話は盛り上がりを示す。「確認質問」も話を盛り上げるのにさらに有効なものである。このさい、この発話の連続パターンをいくつか含む、より大きな単位は、長くなる。別のパターンとして、インタビューに始まる「「確認→あいづち」→話題提示」という形がある。この「確認→あいづち」の部分は

一つではなく複数でもよい。このパターンは次に来る「質問→回答→あいづち」の基本パターンのための周到な前置きと考えられ、談話にインタビューの強いコントロールが働き、「質問」によって長いコメントを求める場合に有効である。

6 おわりに

以上、日本語学習者によるインタビューの談話の構造を検討し、記述してきた。

本稿では、資料に既成の枠組みをあてはめて分析するのではなく、資料そのものから浮き出てくる特徴をできるだけ忠実にとらえたい、というのが目的であった。そのため、単位の設定に関して、「連続パターン」や「内容まとまり」という術語を仮に定めて使った。今後、これらがいわゆる「隣接ペア」や「話段」の概念とどの程度一致し、どの程度ずれがあるのか、という問題について、くわしく検討し論じる必要がある。これは、談話の一般的な枠組みを作ることにもつながるであろう。そのためには、インタビュー以外の談話および母語話者の談話についても分析を進めていかななくてはならない。

参考文献

- ボリー・ザトラウスキー1993「日本語の談話の構造分析」くろしお出版
杉戸清樹・沢木幹栄1979「言語行動の記述－買い物行動における話しことばの諸側面－」
南不二男編「講座言語3 言語と行動」大修館書店
泉子・K・メイナード1993「会話分析」くろしお出版

むらなか・としこ（総合科学部助教授）